

令和5年度 学校経営方針

I 教育目標と目指す学校像

学びを高める子ども － 楽しい・美しい・鍛え合う学校 －

II 年度重点目標

自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成 ～ 表現力の高まりを目指して ～

III 学校経営方針

1 子どもが通ってよかったと思える学校 －地域の教育資源、小規模校のよさを生かす教育－

見附第二小学校は、豊かな自然や少人数のよさを生かす教育に伝統的に取り組んできた。こうした伝統を継承しつつ、現在の子どもの実態を見つめ、当該年度の重点を設定し、子どもの力を育てていく。

令和5年度の重点は4年度に引き続き、「自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成」とする。そして、前年度の成果を基盤に、地域の教育資源、小規模校のよさ・強み、職員全員で全児童を育てる構えを大切に、表現力の高まりを目指していく。そのために、次の取組を行う。

(1) 確かな学力 ～基礎基本を身に付け、深く考える子どもの育成～

ア 基礎基本の定着を図る取組

(ア) 家庭学習の活性化

- 「杉の子家庭学習ナビ」の活用
- 「ナビ・タブレット版」の活用
- 家庭学習プランニングの実施

(イ) 基礎基本定着の確認と徹底

- 漢字・計算タイムの内容・方法の工夫・改善

イ 主体的な学びをつくる取組

(ア) 授業改善

- 考えをもつ場面と交流する場面での手立ての工夫

(イ) 学び方の習得

- 「杉の子できる・わかるナビ」を活用した指導の実施

(2) 豊かな心 ～自他を大切にのびのびと生活する子どもの育成～

ア 社会性を育む取組

(ア) 体験活動とリンクさせた指導

- 豊かな体験活動の創出
 - ・総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」の活用
 - ・地域と協働する活動の実施
 - ・異年齢集団活動の充実
- 体験活動事前・事後学習の充実(めあて立て&ふりかえりの実施)
- キャリア・パスポートの活用とキャリア相談の実施
- 道徳科授業の充実-体験活動と関連付けた指導の実施
- 子どものアイデアを生かす特別活動の実施

(3) 健やかな心身 ～自分の健康・元気を自分でつくる子どもの育成～

ア 望ましい生活習慣を育む取組

(ア) 生活習慣強固期間の設定

- 睡眠を軸とした指導の充実
 - ・ミニ保健指導と専門家を招いて行う指導の実施
 - ・生活ふりかえりカードの活用
 - ・PTAと連携した取組

イ 体力向上の取組

(ア) 体育授業、業間運動の工夫

- 体育授業中の活動の工夫
- 楽しみながら体力の向上を目指す、業間運動(杉の子タイム)の内容と方法の工夫

2 保護者が通わせてよかったと思える学校 –「共育」(共に子どもを育てる)の推進–

わが子が力を付け、成長していく。それが保護者の喜びである。教育活動を充実させ、さらに、学校と保護者との信頼関係を築けるように、「共育」(保護者と共に子どもを育てる姿勢)を基本に次の取組を行う。

(1) 子どもにかかる願いの共有

面談等を通して、「こんな子どもに育ってほしい」という子どもにかかる願いを学校と保護者とで共有し、教育・子育てに取り組んでいく。保護者からの学校への期待や要望等をしっかり受け止め、教育活動改善の視点とする。

(2) 緊密な情報交換

学校生活において、子どもをとらえるアンテナを高くして情報を把握し、電話、家庭訪問等により、学校での事実を迅速、確実に伝える。また、家庭での様子についても情報を提供してもらう。

(3) 教育活動への参加・協力

学習参観、音楽発表会、学習発表会、運動会、文化祭、臨海教室、スキー教室等に積極的に参加・協力してもらい、持続可能な活動となるよう計画・運営していく。

3 地域が協力してよかったと思える学校 –見附市教育委員会の基本方針「共創郷育」の推進–

見附第二小学校は、学校運営協議会、地域学校協働本部、第二小学校を応援する会、PTA等、地域諸団体と協働で教育活動を進めてきた。こうした活動を維持・充実させ、地域と学校がともに元気になるように、次の取組を行う。

(1) 育みたい資質・能力の共有

学校と関係諸団体とで、協働して行う諸活動を通して子どもに育みたい資質・能力を共有する。その上で、取組の中での子どもへの接し方を工夫する。

(2) 地域に貢献する教育活動

子どもが、地域を舞台に、地域の人と、地域のことを学ぶ教育活動に、地域に支えてもらうだけでなく、地域に貢献する活動を取り入れていく。このことにより、自己有用感や郷土愛を育てていく。

4 教職員が勤めてよかったと思える学校 –第二小「One Team」の推進–

教職員として見附第二小学校でやりたいこと、身に付けたい資質・能力をもち、個々のワーク・ライフ・バランスを整えながら勤務することができるようにする。教職員がはつらつと働き、子どもがいきいきと学ぶ学校づくりに向け、次の取組を行う。

(1) 子どもを深く知る–児童理解力の向上

子ども一人一人をじっくり丁寧に見て、ひとつひとつの姿(点)をつないで子どもを深く知るように心がける。子どもを見る目を養う努力をする。

(2) 授業力の向上–学び合いとチーム協働

子ども目線で教材研究、授業準備をして授業に臨む。学習内容と本時のめあてを明確にもって教室に向かう。

教務室での同僚との対話を大切にする。子どもや教育活動について、語り合い、考え方の違いを受け止め、そこから学ぶようにする。学び合いとチーム協働で子どもを育てる。

(3) 働き方改革の推進–ワーク・ライフ・バランスの意識とタイムマネジメント力の向上

子どもにとって最大の教育環境は教師である。明るく元気で、自らも学ぼうとする教師の姿は子どもの活力を増幅させる。仕事と生活の調和を図り、私生活を楽しむことは生きがい・喜びを増し、教職員としての魅力を高め、豊かな教職生活をつくることにつながる。教職員一人一人が自身のタイムマネジメント力を高め、教職員がはつらつと働き、子どもがいきいきと学ぶ学校をつくる。